

令和7年度 学校評価表 (最終評価)

教育目標 (長期目標)			
1 多様な生育歴や学習歴をもつ生徒が生きる力を身につけ、社会の一員としての自覚をもって社会参加できることをめざす。			
2 基礎学力と基本的生活習慣を身につけることにより、自らの潜在能力に気づき、自立的に社会参加できるよう支援する。			
中期目標	今年度の重点目標	評価	関係者評価
1 基本的生活習慣の確立	1 いじめや体罰のない安心安全な学校づくり	A	A
2 基礎学力補充指導の実施	2 基礎学力・コミュニケーション能力の向上	A	A
3 進路指導の充実	3 生徒の自立に向けた支援の充実	A	A
4 保護者・地域・関係機関との連携	4 開かれた学校づくり	A	A
5 篠ノ井高校定時制の将来像検討			

*評価A：十分達成された 評価B：ある程度達成された C：不十分であった

重点目標【1】 いじめや体罰のない安心安全な学校づくり

評価項目	評価の観点	実績、成果、課題	評価
①基本的生活習慣の確立	毎日の生徒観察と定期的な「生活アンケート」の実施	・学期ごとに「生活アンケート(生活実態調査)」を実施して、個々の生徒の生活や学習の状況を把握した。 ・全校一斉の面接週間は5月と12月の年2回実施している。 ・アセスを実施し、「生徒の学校環境適応感尺度」調査を実施した。	A
	家庭との連絡を密にし遅刻・欠席の連絡を徹底させ、生徒の動静を把握	・遅刻、欠席は保護者からの連絡を原則としている。保護者から連絡がない場合は、担任が家庭へ連絡して生徒の動静把握に努めている。 ・「アルバイト届」を提出させ、受け入れ事業所にも記入を求めることで、生徒の就労状況の把握を図っている。	B
	スマートフォン使用上のモラル確立のための取り組み	・日頃からスマートフォン使用上のモラルについて職員全体で指導している。授業中は必要(調べ学習)があるときは別として、スマートフォン等を使わないように指導しているが、徹底することは困難な状況である。	B
②不登校傾向生徒への対応	家庭との連絡を密にし、スクールカウンセラー等各種関係機関との連携	・必要に応じて保護者と連絡をとり、生徒の状況把握に努めている。 ・本年度は2名がスクールカウンセラーを利用した。	A
③個々の生徒の特性に応じた指導	定期的な個人面談の実施による日頃からの職員との関係作り・生徒理解	・面接週間を5月と10月にとり、担任が生徒全員とじっくり話ができる機会を設けている。 ・日常的に生徒に声かけを行って生徒理解に努めている。	A
	職員集団による情報共有と研修、関係機関との連携	・担当者、担任だけににならないように、必要に応じて職員連絡会で職員全体で生徒に関する情報の共有を図っている。 ・職員会議では、毎回「生徒動向」の時間をとり、生徒の学習や生活面での情報を共有している。 ・本年度から「SSWによる定期訪問支援」をしていただけることになった。不登校に限らず子どもの貧困や児童虐待、いじめや暴力行為等さまざまな課題の未然防止や早期対応のために、定期的に来校いただいて相談にのっていただいたり、該当生徒との面談をしていただいたりしている。 ・昨年度までは県警本部に常駐していたスクールサポーターが、本年度から長野南警察署に常駐することになり、機動的に相談しやすくなった。個別の事案について何度か相談に乗ってもらった。	A
④交通安全指導	自転車通学、および普通自動車や原付バイクの通学許可指導の徹底	・届の確認及び許可の審議に係・職員会議で行っている。 ・本年度、生徒の実態や今後のバイク生産の動向を見据え、原付以外のバイクも通学許可できるよう本校の「交通安全規則」を改訂した。 ・通学許可数：自転車(27名) 原付・バイク(1名) 四輪(1名)	B
	関係機関と連携しての交通安全教育の実施	・長野南警察署交通課の職員を講師に迎え、交通安全講話を行った。(5月1日)	A
⑤いじめの早期発見と早期対応	定期的ないじめ実態アンケート実施と早期対応	・毎学期「学校生活(いじめ実態)アンケート」を実施している。今年度はこれまでに6月、10月、12月に実施した。気になる記述があった場合、教頭、担任、生徒支援担当が面談していじめや問題行動の早期発見に努めている。	A
⑥危機管理	防災訓練の充実・不審者侵入への対応・危機管理マニュアルの確認	・防災学習を9月2日に実施。例年同様、クイズ形式で防災知識の確認をし、その後動画学習を通して防災学習、意識の向上に努めた。	A
⑦薬物使用・性感染症指導	保健衛生係を中心とする指導・保健体育やLHRでの指導・関係機関との連携	・社会状況に合わせ、生徒への指導や情報提供・注意喚起を行っている。10月に保健講話を実施した。	B

重点目標【2】 基礎学力・コミュニケーション能力の向上

評価項目	評価の観点	実績、成果、課題	評価
①個々の学力をふまえた指導法の改善と学び直しの機会の確保	個々の生徒の学力状況の把握と個に応じた学習指導 教員相互の授業公開、指導法向上、基礎学力の定着の工夫	・各教科担当任せになっていた学び直し、基礎学力定着の取組みについて、1, 2年次を中心に学校として統一的な方法（時間、頻度、考査の配点など）で実施し、年度末に成果を確認するよう計画し、実施した。 ・2年前から実施している職員のICT活用力向上の研修を継続。成果が授業へも還元できている。	A
②総合的な探究の時間の展開	生徒の主体的な参加とコミュニケーション能力の向上、主権者教育の実施	・従前の、PC室を主に利用したグループ探究という形態を、昨年度からタブレットを利用した各クラスにおける個人探究・発表という形態に変更。また、昨年度、各学年共通だった探究テーマを今年度から学年ごとに異なるテーマに変更した。生徒各人の調査・研究する意欲・態度、スライド作成のスキル、発表のスキルを大幅に向上させることができてい	A
③各種検定を通しての学力向上	漢字検定など各種検定への取り組み状況	・日本漢字能力検定については、昨年度から全日制と相乗りで受検できるよう計画しており、今年度は2名が受検し合格した。	A
④生活体験発表大会	全員が自身の気持ちを文章にまとめ、全校生徒が発表する機会の設定	・生徒全員が、これまでを振り返り、定時制で学ぶ思いや気持ちを書きとめることができ、立ち止まって自己を見つめ直すという目標は確実に達成できた。 ・校内生活体験発表大会を行い、各学年からの代表者7名が発表した（7月24日）。聴衆の前で堂々と発表したこと、司会進行役を生徒が務めたこと、自分事として他者の意見を傾聴することで、すべての生徒が貴重な経験を積むことができた。	A

重点目標【3】 生徒の自立に向けた支援の充実

評価項目	評価の観点	実績、成果、課題	評価
①生徒会活動の活性化	篠竹祭など生徒会行事への積極的参加の促進と生徒の自主性、主体性、協働性の育成	・今年度は対面式、新入生歓迎交流会（校内でゲーム等）、生徒総会、春季、秋季体育大会を行った。篠竹祭ではかき氷とジュースを販売した。まだまだ改善の余地はあるが、おおむね満足の内容であった。その他には生徒会執行部役員と各委員会が中心になって各種行事を企画・運営し、また、日常活動として整美委員会を中心にゴミ集めや清掃活動を意欲的に行っている。今後もなるべく多くの生徒が関わっていけるよう運営していきたい。	A
②クラブ活動の活性化	生徒個々の活躍の場の設定と生徒の自己肯定感の育成	・バドミントン部は月～木の放課後に練習をしている。北信定通総合体育大会には男子1人が出場した。北信定通秋季大会には男子2人が出場し、2人とも2回戦に進んだ（1人は不戦勝）。1年生を含め5～6名の生徒が連日よく活動しているので、来年の大会を目指し活動を継続していきたい。	A
③キャリア教育の充実	就業体験への取り組みや企業見学、学校見学の実施	・就職希望者については企業説明会、応募前見学に複数企業に参加させるようにしている。進学希望者については専門学校を中心に、オープンキャンパス、学校説明会に、これも多くは複数校に参加した。	A
④校外学習の実施	生徒、職員が外部機関で共に学ぶことによる望ましい人間関係の形成	・10月3日（金）に「富士急ハイランド」にて校外学習を実施。生徒31名が参加。事故なく無事に行事を進行できた。一部生徒の問題行動が発生していたことが後のアンケートにて判明。次年度以降注意を促していきたい。	A
⑤就職指導の充実	外部組織との連携、全職員の進路相談体制の充実	・5月27日に全校生徒対象の進路講話を実施。（講師 大原学園長野校 中澤さん）「専門学校ではエネルギー不足の人にもエネルギーを与えて就職させている。自分自身、就職をする中で自己を成長させている。」等、自らの体験を中心とした、具体的な説明・助言をいただき、生徒にとって有益な情報提供ができた。 ・今年度、就職で1名内定、専門学校に3名合格、公立大学に1名学校推薦で合格、共通テストを1名受験。	A
⑥進学指導の充実	学校見学、補習授業、情報提供とその活用	・日本学生支援機構の奨学金の振り込み等の具体の説明など、は3年次から行っている（4名申請）。 ・模試の実施（ベネッセ・駿台系、希望者に河合塾系）	A

重点目標【4】 開かれた学校づくり

評価項目	評価の観点	実績、成果、課題	評価
①授業公開	本校の教育活動の理解を図るため地域・保護者及び中学校関係者への授業公開の実施	・5月の定時制教育振興会総会前の授業公開には、8名の保護者の参加が得られた。 ・中学生および保護者対象の授業見学、学校説明会を随時行った。中学生9名、および中卒者3名のあわせて12名が、保護者や中学校教員等の付き添いとともに来校・見学をしてくださった。	A
②体験入学	中学生体験入学により中学生・保護者へ本校の教育活動を発信	・中学生体験入学を11月13日に実施。昨年度と同様、多数の中学生、保護者の参加が得られた（生徒22名、保護者25名、中学校教員1名） ・今年度から、生徒会による学校生活の紹介を教頭による学校概要説明に組み込むとともに、新たに25分の授業体験を実施。おおむね好評であった。 ・全体会終了後の個別相談の実施方法に課題が残ったので、改善を図りたい。	A
③定時制教育振興会	総会や各種行事において教育活動や取り組みを報告・共有	・5月7日（火）に実施。教育振興会長及び保護者7名が出席し、学校から定時制の教育活動について報告した。 ・正副振興会長には、校内生活体験発表大会や交流会に参加いただき、生徒の様子を見ていただいている。	A
④ホームページ等による情報提供	ホームページや「定時制だより」等により適切な情報を地域に発信	・必要な事項は常にホームページに掲載している。現在、学校全体のホームページ更新の作業中である。	B